

2026年度

事業計画書

2026年1月1日から

2026年12月31日まで

公益財団法人 世界こども財団

I 被災地の子どもたちや青少年への支援事業

1 事業内容

国内外の被災地における災害直後の調査活動（情報収集合む）及び緊急援助を含め、被災地への食料・生活物資支援及び心身の健康を維持するためのカウンセリング、並びに災害復興のための文化・芸術活動の支援活動を他の協力支援者とともに協働して展開し、もって被災地の子どもたちや青少年を元気にし、かつ健全に育成するための支援事業。

2 2026年度活動方針

東日本大震災から15年目を迎え、変化していく被災地のニーズを汲み取りながら、相馬市・南相馬市を中心に福島県浜通りの子どもの心身の健康を維持するためのカウンセリングやスポーツ交流等を他の支援者とともに協働して実施する。

また、東日本大震災以外にも、自然災害で被災した地域への緊急支援も可能な限り実施していく。

3 支援事業の概要

(1) カウンセリング

- 被災地における環境変化の中で心理的に不安定になる小中高校の児童、生徒、教員および保護者等が見られることから、彼らを対象としたカウンセリングを実施して欲しい旨要請を受けた。本要請は、世界こども財団の活動趣旨に一致することから、他の支援者（相馬市教育委員会・南相馬市教育委員会、NPO 法人相馬フォロアーチーム、NPO 法人星槎教育研究所および学校法人国際学園）とともに協働し、2011年度より福島県相馬市・南相馬市において継続的に支援を実施してきた。現在は南相馬市の小中学校にて活動を継続している。
- 2026年度においても南相馬市から継続の要請を受けているため、支援を継続する。
- 世界こども財団は、本カウンセリングに関する、支援対象者について学校および教育委員会との調整、カウンセリングの実施に関する企画・コーディネートおよび支援機関等への活動支援（移動・宿泊等の支援）および一部経費負担等の支援活動を行う。

カウンセリングの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	日程等
カウンセリング	福島県南相馬市	市内全ての中学校および特定の小学校の児童・生徒・教員・保護者	6名体制、年間で24回（月2日×12ヶ月）実施。一部の学校は年間で48回実施（月4日×12ヶ月）
備考	【支援者（機関）】 南相馬市教育委員会、NPO 法人 星槎教育研究所、学校法人 国際学園 【実績】 ・2011年5月より継続実施 ・2015年3月までの相馬市内でのカウンセリング累計数は、生徒：750件、教員：355件、保護者62件 ・2025年3月までの南相馬市内でのカウンセリング累計数は、生徒：7,444件、教員：771件、保護者965件		

(2) スポーツ交流

- 福島県相馬市において子どもたちを元気にするため、子どもサッカー大会、サッカースクールおよびサッカー指導者講習会の開催についての要請を受け、世界こども財団の活動の趣旨に一致することか

ら他の支援者とともに協働して２０１１年より実施している。

- ・ 世界こども財団は、本スポーツ交流等に関する参加者についての調整、開催実施に関する企画・コーディネート、支援機関等の活動支援（移動・宿泊等支援）等の支援活動を行う。
- ・ ２０２６年度は１月に子どもサッカー大会「星槎奥寺カップ」および指導者講習会を実施する。

スポーツ交流の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	日程等
・ 子どもサッカー大会 「星槎奥寺カップ」	福島県相馬市	・ 相双地区小学校の児童	２０２６年１月１７日
・ サッカー指導者講習会	福島県相馬市	・ 相双地区サッカーチーム指導者	２０２６年１月１８日
備 考	【協働者（機関）】 相馬市サッカー協会、NPO 法人ドリームサッカー相馬、学校法人国際学園 【実績】 ２０１１年度より継続実施		

（３）東日本大震災関連のその他の活動

- ・ 福島県大熊町は東日本大震災後、全町避難を余儀なくされ、２０２３年によりやく学校が再開されこどもたちが帰ってきたが、いまだに様々な制限の中で、ストレスを抱えているこどもたちが多い。前述のカウンセリング、スポーツ交流以外にも、同町においてこどもたちを支援するため、近年下記の活動を実施している。２０２６年度は、前述のスポーツ交流と併せて、同町においても１月１６日にサッカー教室を実施予定。また、引き続き関係者と連携し、必要に応じて協議・検討を行う。

２０２３年 大熊町放課後児童クラブ「ゆめの森」へ遊具やおもちゃなどの寄付活動

２０２５年 大熊町のこどもたちを招待し、「FGC Presents 大熊こぐまキャンプ in 山梨道志村」を実施

（４）各地での災害等への支援

- ・ これまでも、国内外各地で発生した災害等に対し、緊急募金活動等を実施し、被災地の子どもたちや青少年のために活動する自治体・団体に寄付を行ってきた。今後も国内外で災害等が発生した際には、必要に応じこの活動を継続していく。

【近年の支援活動実績】

２０２５年３月 ミャンマー地震への緊急募金活動

２０２４年１月 能登半島地震への緊急募金活動

２０２３年２月 トルコ・シリア地震への緊急募金活動

２０２０年７月 豪雨による九州地方被害への緊急募金活動

２０１９年１０月 沖縄 首里城焼失 再建のための募金活動

２０１９年１０月 東北地方台風被害への緊急募金活動

Ⅱ 子どもたちや青少年の教育・保健衛生・医療環境の向上のための支援事業

1 事業内容

開発途上国の特に必要とされている地域・社会において、教育・保健衛生・医療に携わる従事者の育成及びそれぞれの環境の改善、向上を他の協力支援者とともに協働して展開し、もって子どもたちや青少年を元気にし、かつ健全に育成するための支援事業。

2 2026年度の活動方針

子どもたちや青少年の教育・保健衛生・医療環境を改善するべく、現地の各関係機関と連携し活動を実施する。また、スポーツを通じた支援も行い現地の子どもたちや青少年の育成に加え、支援国のスポーツ文化の振興・発展に寄与する。2023年度より新規事業としてウガンダ共和国における子どもたちへの教育支援および現地小学校の環境整備支援を開始し、2026年度も引き続き実施する。ブータン王国への支援については、2025年度の現地訪問を契機に再びオリンピック委員会等との協議を進め、アーチェリー競技においてブータンの青少年の指導にあたる指導者を日本に招き、研修を行うプログラムの実施を予定している。その他の事項については引き続き現地の状況を考慮しながら既存および中断していたプログラムの見直し、整理を行っていく。

3 支援事業の概要

- ・ウガンダ共和国およびブータン王国において実施予定、または懸案となっているプログラムおよびその経緯は下記の通り。
- ・なお、留学生の受け入れについては「Ⅲ 子どもたちや青少年の国際相互理解の促進と健全な育成のための支援事業」に記載する。

(1) ウガンダ共和国

ウガンダ共和国オモロ県の現地小学校支援		
支援対象地区	支援対象者	日程等
ウガンダ共和国オモロ県	KOMOREBI 小学校児童	協議により決定
支援内容	2023年2月、ウガンダ共和国オモロ県にて日本のNPO法人(NPO法人五条クラブ)が創設した「KOMOREBI 小学校」が開校、小学校1、2年生の子どもたち86名が学校生活を開始。2023年7月、NPO法人と公益財団法人世界こども財団の協働向け協議を開始。9月に支援の現状と現地で必要とされる事案等を確認、検討の結果、本活動が世界こども財団の公益目的事業と合致、また実現の可能性が高いことを確認し、新規支援事業として取り組むことを決定。2023年11月駐日ウガンダ共和国大使と面会、協議の結果、本事業がウガンダ共和国政府公認(公式)となる。 2023年12月20日-28日に現地訪問し視察、また現地自治体と五条クラブ、世界こども財団の3者で連携協定を締結。2024年4月に橋の建設をスタートし7月に完成、橋を「SEISA Africa Asia Bridge」と名付け支援者(個人・法人)の名前を記した完成記念のモニュメントを設置した。また、併せて2023年度から2025年度まで継続的に小学校の教室増設へ向けた支援も実施し、児童の進学に併せて5学年までの教室が整備されている(ウガンダの小学校は7年制)。2023年、86名でスタートし	

	た同校は、２０２５年度時点で１４０名（４年生まで）を超えた。 ２０２６年度も引き続き、現地および協働者のニーズを汲み取りながら、環境整備支援を続けていく。 【２０２４年度からの中期計画（５ヵ年）】 当財団の３つのビジョンにある「ゆっくり、されど着実に。先々の未来まで続く活動を」に基づき、一過性の支援ではなく継続的な支援と関わりを目指す。 以下５ヵ年の支援内容： ・当該小学校に通う子どもたちのための「橋」の建設整備支援：完了 ・当該小学校の教室増設支援 ・当該小学校のインターネットなどの学習環境整備 ・当該小学校の電気・上下水道・衛生設備などの環境整備
備 考	【協働者】駐日ウガンダ共和国大使館およびウガンダ共和国政府、ウガンダ共和国オモロ県、NPO 法人五条クラブ

【現地小学校支援内容】

(ア) 当該小学校に通う子どもたちのための「橋」の建設整備支援	
支援内容	当該小学校に通うための通学路の整備が進んでいるが、特に地域で雨季になると道が水没してしまい通学が困難となる子どもたちのため、その箇所での橋の建設および整備を支援する。
備 考	２０２４年度７月に完成。今後は利用状況を確認しつつ、必要な対応を行う。

(イ) 当該小学校の教室増設支援	
支援内容	ウガンダ共和国の小学校は７年制となっているが、２０２３年「KOMOREBI 小学校」は３学年まで、３教室しかない状況であった。２０２４年度は４学年、２０２５年度は５学年への進学のための教室増設支援を実施した。２０２６年度以降も子どもたちの進級に合わせて毎年１学年ずつ増設をしていく計画であるため、この増設についても支援を行う。
備 考	引き続き２０２６年度は第６学年進級のための教室増設支援を行う。

(ウ) 当該小学校のその他インフラ整備支援	
支援内容	通学路の橋の建設、教室増設支援に加え、その他以下のインフラ整備の支援を行う ・インターネットなど学校の学習環境整備 ・電気・上下水道・衛生設備などの環境整備
備 考	詳細は後日決定

(エ) 国際交流支援	
支援内容	ウガンダ共和国および「KOMOREBI 小学校」との国際交流プログラム、また将来的には留学生の招聘など、教育・文化的な支援や交流プログラムを継続的に実施していく。
備 考	２０２４年度は現地ボランティアと連携し子どもたちの様子および橋の完成について

	のムービーを作成、国際交流イベントでの紹介等を実施したほか、当財団の所在地である神奈川県大磯町が当財団の活動を契機として「万博国際交流プログラム」におけるウガンダ共和国との交流事業（大磯こどもサミット）を実施し、協力要請を受けて当財団の活動紹介等を行った。２０２５年度は大阪・関西万博において、ウガンダ共和国大使館からの招待を受け、ナショナルデーの式典に出席した。今後については状況を見ながら継続的に進めていく。
--	---

（２） ブータン王国

① アーチェリー指導者研修プログラム		
支援対象地区	支援対象者	日程等
ブータン王国	ブータンオリンピック委員会 およびブータンアーチェリー 連盟所属の競技指導者	後日決定（２０２６年度中に 実施）
経 緯	２０２５年８月のブータン王国渡航を通じ、ブータン王国の国技であるアーチェリーにおいて、ブータンオリンピック委員会および同アーチェリー連盟が、競技環境の改善と次世代の国際的な選手・指導者の育成を目指す取り組みに尽力していることを改めて認識した。これにより同国の青少年育成および国際交流に貢献すべく、指導者向けの３か月間程度の日本での長期研修プログラムをへの要請を受け、具体的な提案を行った。研修内容は元・全日本アーチェリー連盟事務局長や、アーチェリー指導において先進的な取り組みを行っているアリコグループの監修・協力を得ている。本プログラムは毎年の継続も視野に入れながら、スケジュール、人選等をさらに協議の上、２０２６年度に第１回を実施する予定である。	
備 考	【協働者（機関）】 ブータンオリンピック委員会、ブータンアーチェリー連盟、全日本アーチェリー連盟、アリコグループ、学校法人 国際学園	

② スポーツスクールの運営支援		
支援対象地区	支援対象者	日程等
ブータン王国	公立・私立選定協力校	後日決定
経 緯	２０１９年１０月、ブータンオリンピック委員会と同国教育省の共同プロジェクトチームより、ブータン王国にて開校予定のスポーツスクールへの運営支援、並びに日本国内公私立高校への視察・調査における協力及び支援の依頼があった。 ２０２０年度以降、新型コロナウイルス感染拡大とブータン王国の国内情勢の変化から、スポーツスクール開校延期と同プロジェクトの軌道修正を余儀なくされたが、前述の２０２５年８月の同国訪問においては、当財団のスポーツ留学生として来日、卒業後ブータンオリンピック委員会に就職し青少年指導にあたっている卒業生が現地学校におけるスポーツプログラムを担当しており、実際に教育現場での取り組みを視察、今後へ向け協働の可能性を確認した。今後の方針については、同国オリンピック委員会および関係各所と協議の上検討する。	
備 考	【協働者（機関）】 ブータン王国教育省、同オリンピック委員会、学校法人 国際学園	

③ブータン王国でのスポーツ大会開催およびアスリートの国際大会参加支援		
支援対象地区	支援対象者	日程等
ブータン王国	当該国アスリートおよび関係者	要請或いは協議により決定
経 緯	東京2020オリンピック・パラリンピック大会に向けアスリートの日本への招聘やブータン王国内でのスポーツ大会開催支援等を行ってきた。また、2021年度には東京オリンピック競技大会においてブータン代表チームの事前キャンプおよび大会参加支援を実施した。東京大会終了後も2023年世界水泳福岡への参加支援、2025年東京マラソンへのブータン王国からの初出場支援等を実施してきた。今後の活動については、同国オリンピック委員会および関係各所と協議の上検討する。	
備 考	【協働者（機関）】 ブータンオリンピック委員会、同各スポーツ競技連盟、学校法人 国際学園	

④障がいを持つ人へのスポーツを通じた支援		
支援対象地区	支援対象者	日程等
ブータン王国	当該国において身体および知的障がいを持つアスリート	要請或いは協議により決定
経 緯	東京2020オリンピック・パラリンピック大会へ向け、パラリンピック委員会の設立、アスリート育成、福祉車両の寄贈等の環境整備、事前キャンプ受け入れ等の支援を継続してきた。パラアスリート3名がブータン王国史上初のパラリンピック大会出場を果たし、無事に終了した。2025年8月にブータン王国を訪問し、ブータンパラリンピック委員会へ車いすバスケットボール用の競技用車いす5台を贈呈した。今後の活動については、同国パラリンピック委員会および関係各所と協議の上検討する。	
備 考	【協働者（機関）】 ブータンパラリンピック委員会、同各スポーツ競技連盟、学校法人国際学園	

Ⅲ 子どもたちや青少年の国際相互理解促進と健全な育成のための支援事業

1 事業内容

開発途上国の特に必要とされる地域・社会において、それぞれの国の将来を担う子どもたちや青少年に対し、日本国内への留学等の教育支援及びスポーツ・文化振興に関する支援活動を他の支援者とともに協働して展開する等、国際相互理解の促進と彼らを健全に育成するための支援事業。

2 2026年度活動方針

アフリカ・アジアを中心とする各国との国際相互理解促進を図るため、高校生・大学生の留学受け入れを他の支援者とともに協働して継続実施する。特に、スポーツに才能のある青少年を受け入れることで、スポーツを通じた国際交流および青少年育成支援を行う。また、国際理解促進のための教育機関における授業プログラム等も実施する。

3 支援事業の概要

(1) マリ共和国留学生（高校生）の受け入れ

- ・ マリ共和国より、スポーツ競技に才能があり、かつ学習意欲の高い高校生を日本へ留学させ、最新のスポーツ科学を取入れたトレーニングを提供することにより、その才能を伸ばす。それとともに日本の後期中等教育を受けさせることにより、日本・マリ両国の友好に貢献できる人材を養成する。一方、留学生がクラスに入ることにより、日本人生徒にも国際的視野が広がることが期待できる。
- ・ 2023年度に、マリ共和国からの高校留学生（バスケットボール競技男子1名）の受け入れを開始した。世界こども財団は、同留学生の渡航手続き等窓口としての支援、奨学生としての学費負担、そして、受け入れ校と連携しての日本語教育プログラム提供等を担当している。
- ・ 2026年度は、同留学生が高校を卒業するため、継続して大学への進学支援を実施する。また、新たな留学生1名（バスケットボール競技男子1名）の受け入れを予定している。

留学生受け入れの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	日程等
留学	マリ共和国	(継続) 高校生1名 (新規) 高校生1名	・ 2023年より継続
備考	【受入れ校】 学校法人 国際学園 星槎国際高校湘南 【協働者（機関）】 学校法人 国際学園、学校法人 北海道星槎学園、駐日マリ共和国大使館		

(2) ナイジェリア連邦共和国留学生（高校生）の受け入れ

- ・ ナイジェリア連邦共和国より、スポーツ競技に才能があり、かつ学習意欲の高い高校生を日本へ留学させ、最新のスポーツ科学を取入れたトレーニングを提供することにより、その才能を伸ばす。それとともに日本の後期中等教育を受けさせることにより、日本・ナイジェリア両国の友好に貢献できる人材を養成する。一方、留学生がクラスに入ることにより、日本人生徒にも国際的視野が広がることが期待できる。
- ・ 2025年度に、ナイジェリア連邦共和国からの高校留学生（バスケットボール競技女子1名）の受け入れを開始した。世界こども財団は、同留学生の渡航手続き等窓口としての支援、奨学生としての学費負担、そして、受け入れ校と連携しての日本語教育プログラム提供等を担当している。
- ・ 2026年度は、同留学生が高校在籍中であるため、継続して支援を実施する。

留学生受け入れの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	日程等
留学	ナイジェリア連邦共和国	(継続) 高校生1名	・ 2025年より継続
備考	【受入れ校】 学校法人 国際学園 星槎国際高校湘南 【協働者（機関）】 学校法人 国際学園、駐日ナイジェリア連邦共和国大使館		

(3) エリトリア国留学生（高校生・大学生）の受け入れ

- ・ エリトリア国より、スポーツ競技に才能があり、かつ学習意欲の高い高校生を日本へ留学させ、最新のスポーツ科学を取入れたトレーニングを提供することにより、その才能を伸ばす。それとともに日本の後期中等教育を受けさせることにより、日本・エリトリア両国の友好に貢献できる人材を養成する。一方、留学生がクラスに入ることにより、日本人生徒にも国際的視野が広がることが期待できる。
- ・ 2017年度に事業を開始し、これまで同国より高校・大学留学生計12名の受け入れを実施した。世界こども財団は同留学生の渡航手続き等窓口としての支援、奨学生としての学費負担、また受け入れ校と連携しての日本語教育プログラム提供等を担当。
- ・ 2025年、星槎道都大学陸上部に在籍していたエリトリア大学生1名が卒業、現在1名が在籍中。在籍生徒については2026年3月に予定している同学の卒業まで、継続して支援する。

留学生受け入れの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	日程等
留学	エリトリア国	(継続) 大学生1名	・ 2017年より継続
備考	【受入れ校】 学校法人 北海道星槎学園 星槎道都大学 【協働者（機関）】 エリトリア国文化スポーツ庁、同オリンピック委員会および陸上競技連盟、 駐日エリトリア国大使館、学校法人 北海道星槎学園、学校法人 国際学園		

(4) ブータン王国留学生（高校生・大学生）の受け入れ

- ・ ブータン王国より、スポーツ競技に才能があり、かつ学習意欲の高い高校生・大学生を日本へ留学生として受け入れる。優れたトレーニング環境を提供することにより、その才能を伸ばす。それとともに日本の後期中等教育を受けさせることにより、日本・ブータン両国の友好に貢献できる人材を育成する。一方、留学生がクラスに入ることにより、日本人生徒にも国際的視野が広がることが期待できる。
- ・ 2018年度より受け入れを開始し、これまでアーチェリー、陸上競技、柔道において高校生・大学生計6名を受け入れた。世界こども財団は同留学生の渡航手続き等窓口としての支援、奨学生としての学費負担、また受け入れ校と連携しての日本語教育プログラム提供等を担当。
- ・ 2023年度に、在籍していた大学生3名が卒業、帰国した。その後、新規の留学生受け入れを、高校生（特にアーチェリー競技選手を想定）を対象に提案しているが、現地での調整が進まなかったため、2026年度においても引き続き検討、交渉を行う。

留学生受け入れの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	日程等
留学	ブータン王国	検討中	・ 2018年より継続 ・ 新規受け入れは後日決定
備考	【受入れ校】 学校法人 国際学園 星槎国際湘南 【協働者（機関）】 ブータンオリンピック委員会および競技連盟、学校法人 国際学園		

(5) その他 海外からの留学生受け入れ

- これまで前述の各国よりスポーツ留学生の受け入れを実施してきたが、国際交流イベント等を通じて、他国からも同様の支援への要望が寄せられている。当財団の活動目的を十分に理解し協力する送り出し団体があること、また将来有望でありスポーツだけでなく勉学にも励むことができる候補者がいることを前提に、受け入れについては随時検討する。

(6) 国際理解促進のための教育機関での出張授業プログラム

- 世界こども財団職員を国内の学校に派遣し、国際理解教育を支援する取り組みを「出張授業」として実施する。
- 本取り組みは2022年度に開始し、まずは学校法人国際学園の3校舎（星槎国際高等学校八王子学習センター、同立川学習センター、同横浜鴨居学習センター）において、ブータン王国のプログラムを担当する職員により、ブータンを探究テーマとして文化・歴史・共生について学んだ。特に食文化に着目して生徒が主体となってキッチンカーを運営するゼミ等を実施した。また、生徒の国際貢献を促すべく、生徒会と連携しての募金活動や、不要品回収の活動等を実施した。
- 2023年度は、エリトリアから当財団のプログラムで留学し、大学卒業後世界こども財団にて勤務している職員が星槎国際高等学校（八王子学習センター、横浜鴨居学習センター、立川学習センター）を定期巡回したほか、夏期休暇中も特別企画を担当するなど、エリトリア、およびアフリカと日本の文化、またスポーツの要素も取り入れて授業を実施した。
- 2024年度は、星槎国際高等学校（小田原学習センター、横浜鴨居学習センター、立川学習センター）での出張授業に加え、駐日エリトリア大使館から要請を受け、港区立白金小学校でエリトリアの文化などについて紹介する国際理解教育の出張授業を実施した。また、同八王子学習センターにおいては、世界こども財団職員による外国籍生徒の学習支援を、通年実施した。
- 2025年度は、星槎国際高等学校（横浜鴨居学習センター、立川学習センター）を定期巡回したほか、昨年度に続き夏季休暇中も特別企画を担当し、また駐日エリトリア大使館から要請を受け、港区白金小学校での国際理解教育の出張授業も継続して実施した。
- 現在の星槎国際高等学校でのプログラムは2026年3月まで継続し、以降については学校側の4月以降のニーズを踏まえ、継続していく。

出張授業プログラムの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	日程等
出張授業	国内	生徒および学校関係者	2022年度より継続
備考	【協働者（機関）】 学校法人 国際学園、学校法人 星槎		

(7) 国際交流イベント SEISA Africa Asia Bridge (SAAB) への参加・開催支援

- アフリカ、アジアの国々を知り、お互いを認め合い、そして、つながる“架け橋”となることを目的として例年11月に開催される国際交流イベント SEISA Africa Asia Bridge（通称 SAAB）において、世界こども財団は2015年度から2022年度までは共催団体の一つとして、2023年度

以降は後援団体として参加している。

- ・ 11周年となる2025年は11月15日（土）、昨年に引き続き横浜市との共同開催となった。横浜会場には10,593人が来場、アフリカ各国の駐日大使館を中心に40か国からの参加を得た。また、プログラムはオンラインでも同時配信された。
- ・ 世界こども財団では本イベントを後援するとともに、実行委員会にも参加し、大使館招聘、各種申請関係、翻訳、通訳等の開催支援を実施した。また、イベント当日には活動紹介のためブースを出展した。
- ・ 本イベントは2026年度においても開催が決定しているため、世界こども財団としても引き続き取り組みを続ける。

SEISA Africa Asia Bridge 参加・開催支援の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	日程等
SAAB2026	国内およびアフリカ、アジアを中心とした国々	来場者、視聴者、および参加生徒等	2026年11月14日
備考	【協働者（機関）】 SEISA Africa Asia Bridge 実行委員会、横浜市、一般社団法人 星槎グループ、学校法人国際学園、学校法人 星槎、アフリカ各国駐日大使館、JICA 横浜、UNDP（国連開発計画）他 【実績】 2015年より継続		

IV 子どもたちや青少年の自立支援事業

1 事業内容

開発途上国の特に必要とされる地域・社会において、孤児院や障がい者施設等で、自立に向けた技能体験等に必要な資金提供（寄附）や企業へのインターンシップ等に関する支援活動を他の支援者（企業等）の協力を得て展開する等、子どもたちや青少年の自立を図るための支援事業。

2 2026年度の活動方針

本事業については基本的に前年度方針を継続し、開発途上国の子どもたちや青少年の自立を支援するため、他の支援者とともに支援活動を実施する。

3 支援事業の概要

（1）エリトリア国出身職員の自立支援プログラム

- ・ 当財団のスポーツ奨学生（陸上競技）プログラムで日本に留学し、大学を卒業したエリトリア国出身者1名を職員として雇用し、当該職員が引き続き日本で活動、自立して社会人としての生活を送れるよう支援するとともに、当該職員を主体としたプログラムを実施する。
- ・ 本プログラムは単に外国籍の職員を雇用し直接支援することではなく、日本で学んだ留学生が社会に出て、広く母国およびアフリカの文化を紹介すること、さらにその留学生が次の世代の子どもたちや青少年を育てていくことにより、支援と関わりあいの循環を生むことにある。
- ・ 2024年度に引き続き2025年度も「Ⅲ 子どもたちや青少年の国際相互理解の促進と健全な育

成のための支援事業」に記載した出張授業プログラムの実施に加え、各地イベントにおけるエリトリア国の食文化紹介（カレー提供）、留学生を含む高校生および大学生への陸上競技指導、留学生への日本語指導を当該職員の主担業務として実施した。

- ・出張授業等の学校でのプログラムについては2026年3月まで継続し、2026年4月以降も各学校等のニーズを踏まえ継続する。また各種イベントへの参加も継続して行う。

エリトリア国出身職員に関連する支援事業

支援対象地区		支援対象者	日程等
エリトリア国および日本国内		エリトリア国出身職員および留学生を含むプログラム参加者	通年
支援内容	当該職員による下記プログラムのコーディネート ・高等学校における出張授業 ・高等学校、大学における陸上競技指導 ・高等学校における留学生への日本語指導 ・「大磯市」、各学校の文化祭における食文化紹介		
備考	【協働者（機関）】 学校法人 国際学園		

（２） バングラデシュ、アグラサーラ孤児院への支援事業（終了）

- ・株式会社矢部プロカッティングの海外生産拠点設立のニーズと、アグラサーラ孤児院のニーズを結びつけ、縫製工場建設を進めてきた。職業訓練をすすめ、当該工場での就業機会提供、孤児院自立運営に寄与することを目的として、世界こども財団は両者の窓口として継続的に取り組み、工場の建設含め準備は完了していたものの、2020年度から2021年度にかけ、バングラデシュの縫製業組合からのライセンス発行等の遅れ、さらに新型コロナウイルスによるロックダウンなどが追い打ちとなり、三者での協議の結果、現地法人におけるビジネスとしての縫製業の継続は困難と判断した。
- ・2025年時点で現地法人の閉鎖業務完了の報告を受けた。一定期間は、問合せ対応等のため引き続き株式会社矢部プロカッティングとアグラサーラ孤児院間の連携窓口としてサポートを行い、2026年度をもって終了とする予定。

（３） その他各国における草の根活動支援

- ・2020年度、新型コロナウイルスの感染拡大の状況下で困難を抱えながらも草の根の活動を続けるアフリカの団体や学校等を支援し、南アフリカ共和国、マラウィ共和国、ブルキナファソ、サントメ・プリンシペ民主共和国、ガンビア共和国において寄付を行い、その活動を支援した。
- ・2026年度以降も状況に応じ、これまで培ったネットワークを継続し、協働者とともに現地のニーズに合った草の根の支援活動実施について検討する。